

文京学院大学 文京学院短期大学 学長

川邊信雄



謹んで皆様に年頭の挨拶を申し上げます。

本学は、関東大震災の半年後の1924年春に、創立者の島田依史子先生によって開校されました。私自身、昨年3月11日の東日本大震災直後の4月に、島田燦子理事長の後を継いで文京学院大学・文京学院短期大学の学長に就任しましたので、何か因縁めいたものを感じております。本学の建学の精神は「自立と共

生」ですが、昨年ほどこの建学の精神の意義が改めて問われたこともなかったと思います。今回の災害のなか

で、私たち日本人の多くが、自分たちの力なく、自分たちの力

蓄えるだけでなく、「人のために何かをしたい」と考えるようになりました。同時に、

多くの国や地域から支援を受け、日本が国際社会の一員であることを強く印象付けられ

ました。もちろん、本学の多くの学生や教職員が被災地に入り、ボランティア活動を行

いましたが、自らが自立できないと、他人を助けたり、他

人と協力したりすることは

できないと実感したと思いま

す。今後は、この「自立と共生」の建学の精神を備え、国内のみならず、グローバルな社会で活躍できる人材を育成・輩出していききたいと思っています。

関東大震災後に日本は大きく変化し、急速な近代化を遂げました。今年に入り、今回の被災地の復旧・復興も本格的になり、加速化することでしょう。一刻も

早い復興と新たな社会の構築を願わずにいられません。

本学も、2014年の90周年、2024年の100周年をめぐり、今年から大きな変化と飛躍の時代を迎えることになりそうです。第一は、100周年を目指した「新・文明の旅」プログラムの一環として、春休みにトルコ、ブルガリア、ルーマニア3カ国

に学生たちを派遣することです。そのために、昨年9月に

私自身、島田昌和副理事長や担当教員2人と共に、トルコのアンカラ大学、ブルガリアのソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学、ルーマニアのヤシ大学を訪問し、国際交流協定を締結し、学生たちの受入れについてお願いをして

きました。将来的には、本学から学生たちをこれらの国々

の大学へ派遣するだけでなく、これらの大学から学生や研究者を受け入れたり、共同研究や共同カリキュラムの開

発などを行ったりすることなどが期待されています。プログラムの進展にともない、これからバルト海岸岸、中央ア

ジア、東アジアの国々を代表する大学と同じような協定を締結し、交流を深める予定です。もちろん、いままで長期にわたって交流を深めてきたアメリカ合衆国のミネソタ州にあるセント・ベネディクト大学／セント・ジョーンズ大学をはじめとする既存の協定校とは、さらに緊密な関係を構築していくつもりです。

天に昇る龍のごとく

第二は、90周年の事業として、今年の夏から本郷東キャンパスの整備を行います。新たな建物を建設することです。この建物は、文京学院大学の新たな顔になるはず

です。新しい建物が完成次第、本郷キャンパスS館を解体し、2014年の創立90周年に完成を合わせ、新S館を建設します。さらに100周年に向けて、研究や教育の内容を充実するために、またグローバル化やIT化に対応するために全学的な施設やシステム、さらには新たなカリキュラムの構築が必要になると思います。こうした新たな挑戦には果敢に取り組んでいきますが、従来本学が謳ってきた「教育力日本一」「地域との共生」「教育と研究の活性化」などは、今年も継続してより実効のあがる仕組みづくりや日々の活動に邁進していきたいと考えております。

今年の干支は「たつ」です。天に昇る龍のごとく、飛躍を遂げる1年にしたいと思ひます。皆様方のご支援をお願いします。同時に、本年が皆様にとって良い年でありますように心よりお祈りいたします。